

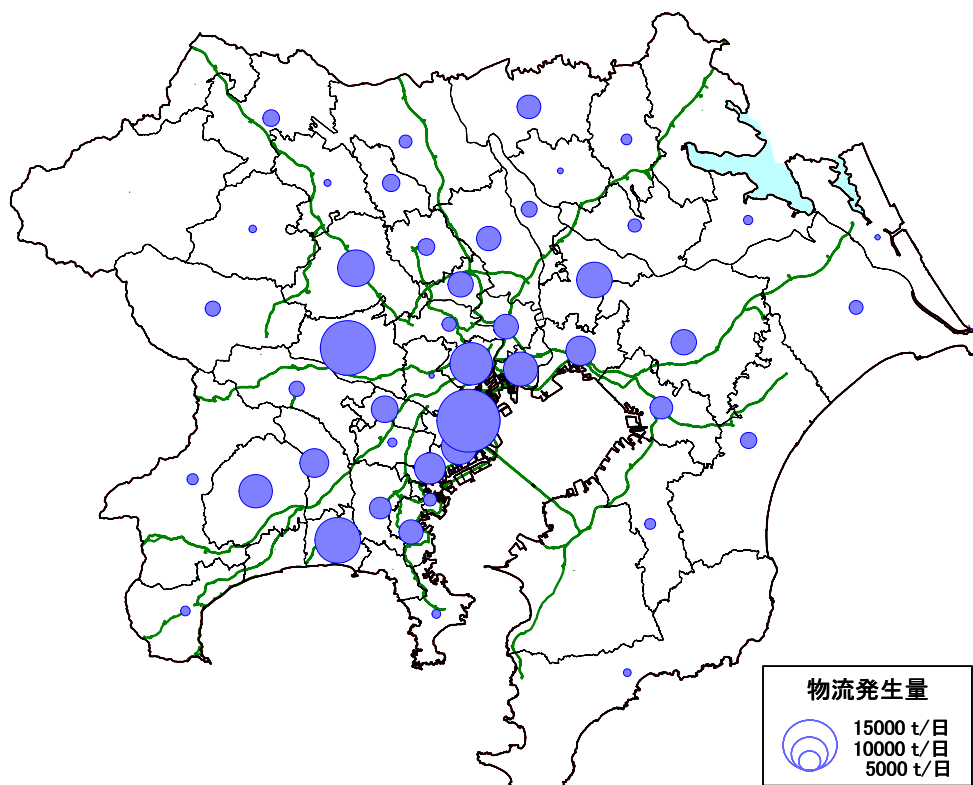
(7) 加工食料品

冷凍食品や飲料など様々な加工食料品は、生鮮食料品とともに暮らしに密着した製品となっている。これらの製品は全国各地から輸送されるとともに、海外からの輸入も多い。このため、特に加工食料品が首都圏に入ってから消費地に届けられるまでの流れについて示す。

◆ 加工食料品の流れの概要

全国各地で生産された加工食料品は、高速道路を利用して、多摩地域、埼玉など郊外部の幹線道路周辺に立地する大規模な物流拠点に輸送されることが多い。また、輸入品は港湾エリアの物流拠点に輸送されることが多い。これらの物流拠点で、広域的な輸送や保管を担っている。

そこから、区部やその周辺部に立地している集配送センターへ輸送され、流通加工や細かな仕分け等が行われ、各地区に配送されることが多い。特に、区部に立地している配送拠点は、主に小規模な集配を行う拠点多い傾向にある。



物流施設からの施設間流動ベースの発生量を図化
資料 東京都市圏交通計画協議会「第4回東京都市圏物資流動調査」(平成15年度)
データより東京都で集計・加工

図 加工食料品の地域別物流発生量

◆ 加工食料品の流れにおける問題点

広域的な輸送を支える物流拠点と道路ネットワークに関する問題点に加え、中小企業からは包装など流通加工機能を含めたサービスの高度化への対応の難しさなどが多く挙げられた。

・物流拠点立地の難しさ

広域的な輸送や保管等の機能を担う大型の物流拠点を圏央道周辺など郊外部に立地させたくても、市街化調整区域*では立地が難しいことなどから、拠点立地による物流効率化を進められない。

・拠点の機能を支えるネットワークが未完成

全国各方面との広域的な配送を行う際に、圏央道が未完成のため、一般道路を走行せざるを得ず時間がかかるほか、外環道や中央環状線が未完成のため、消費地への効率的な配送が行えない。

・流通加工など新たなニーズへの対応の難しさ

加工食料品においては最終的には小売店への配送が多く、物流とあわせて、値札付けなど流通加工を行ってほしいといったニーズが高いが、中小企業ではこれらの要請への対応が難しい場合が多い。

・港湾・空港周辺での物流施設・機能の不足

加工食料品の輸入が増加しつつあり、効率的な保管・輸送を行っていくうえで、港湾エリアに物流施設を立地させたいが、適地の不足などが懸念されている。

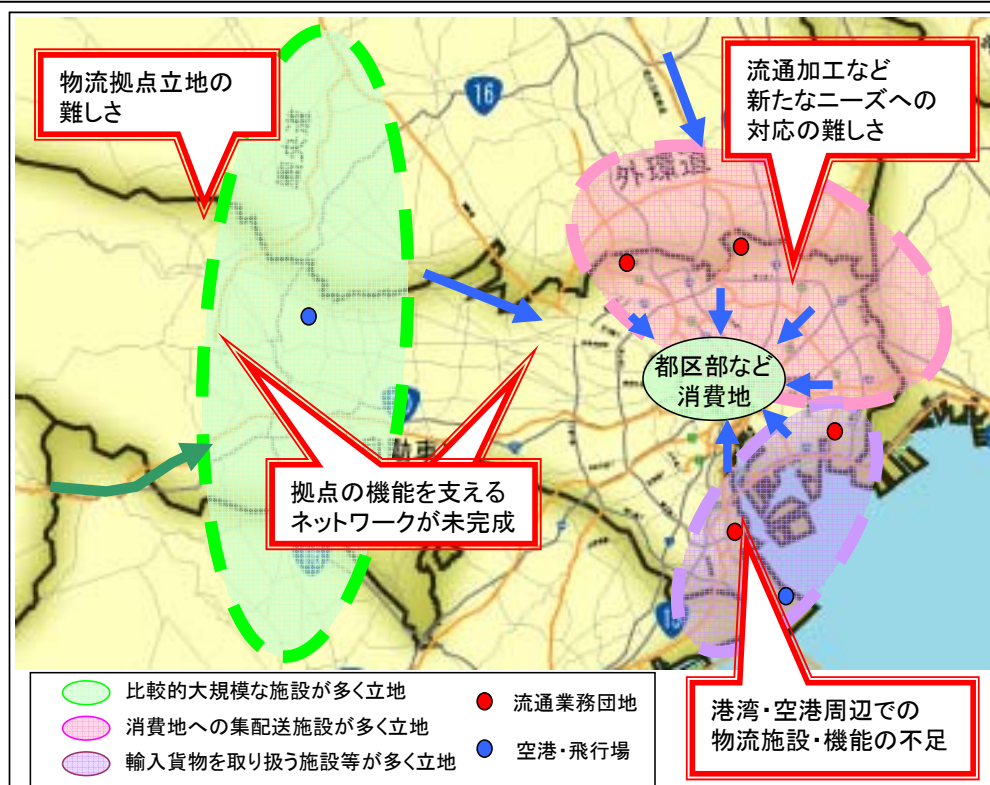


図 加工食料品の流れにおける問題点